

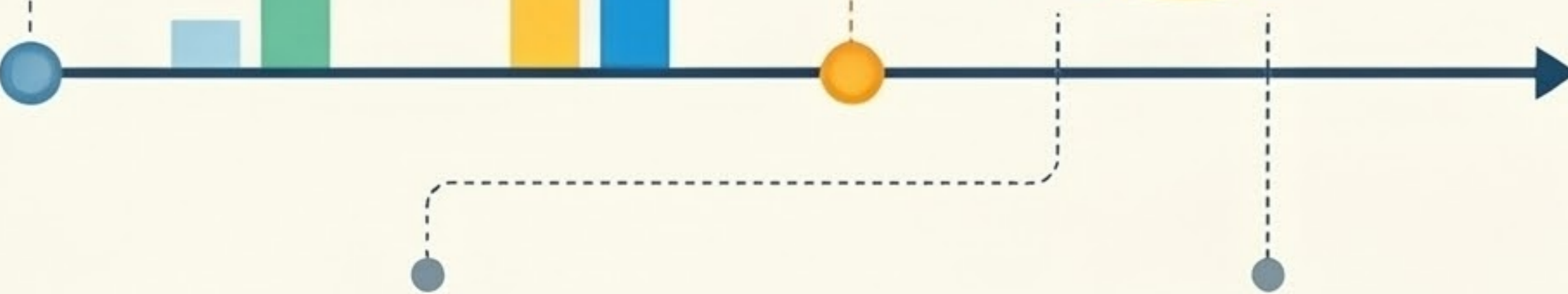
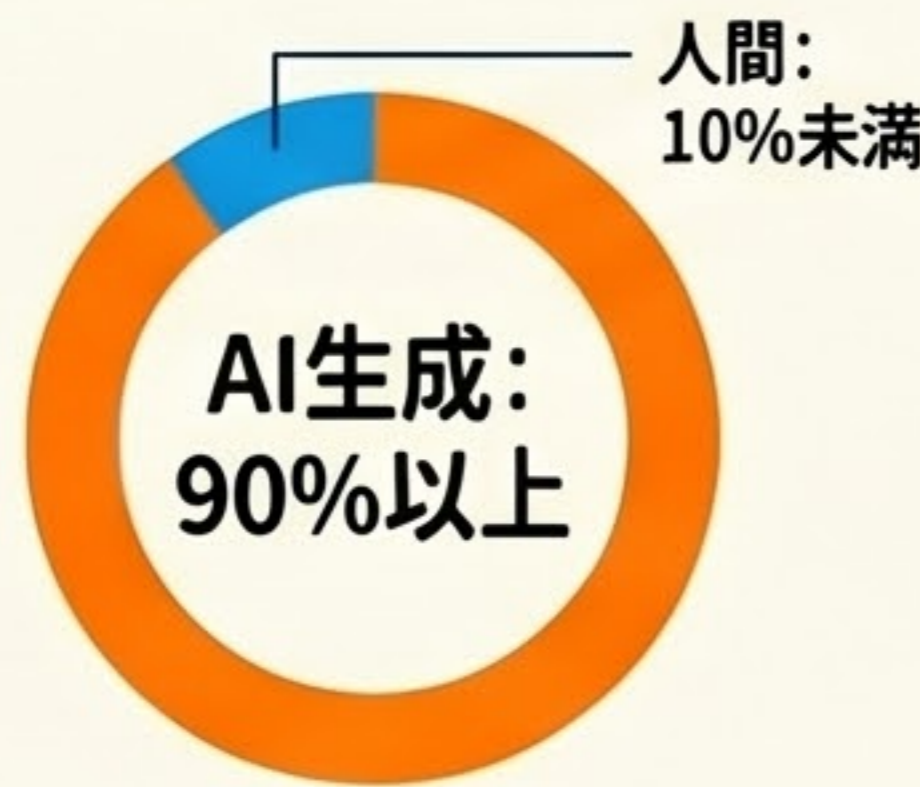
AIコード生成の真実：Anthropicのデータから読み解く開発プロセスの変革

タイムラインと現在地：予測から実証へ

2025年3月：Dario Amodei氏による衝撃的な予測

「3~6か月でAIがコードの90%を書き、12か月ではほぼすべてのコードを書く世界もあり得る」

Anthropic社内コードの「過半数」がAI生成
公式製品ページでは「majority (過半数)」と明記され、CFOのKrishna Rao氏は「90%以上」と発言 (2026年5月時点の報道)



圧倒的な生産性向上とその裏側

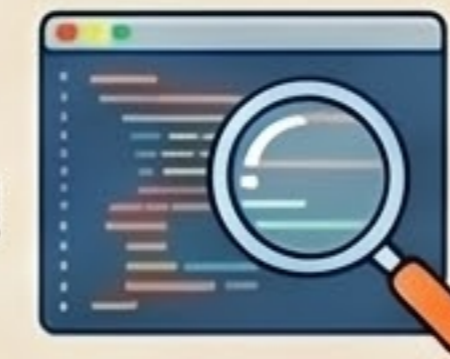
エンジニア1人あたりのマージ済みPRが**67%増加**

Claude Code導入前に記録された数値だが、総務の人員拮据という背景も考慮する必要がある。

自己申告による生産性向上の推移



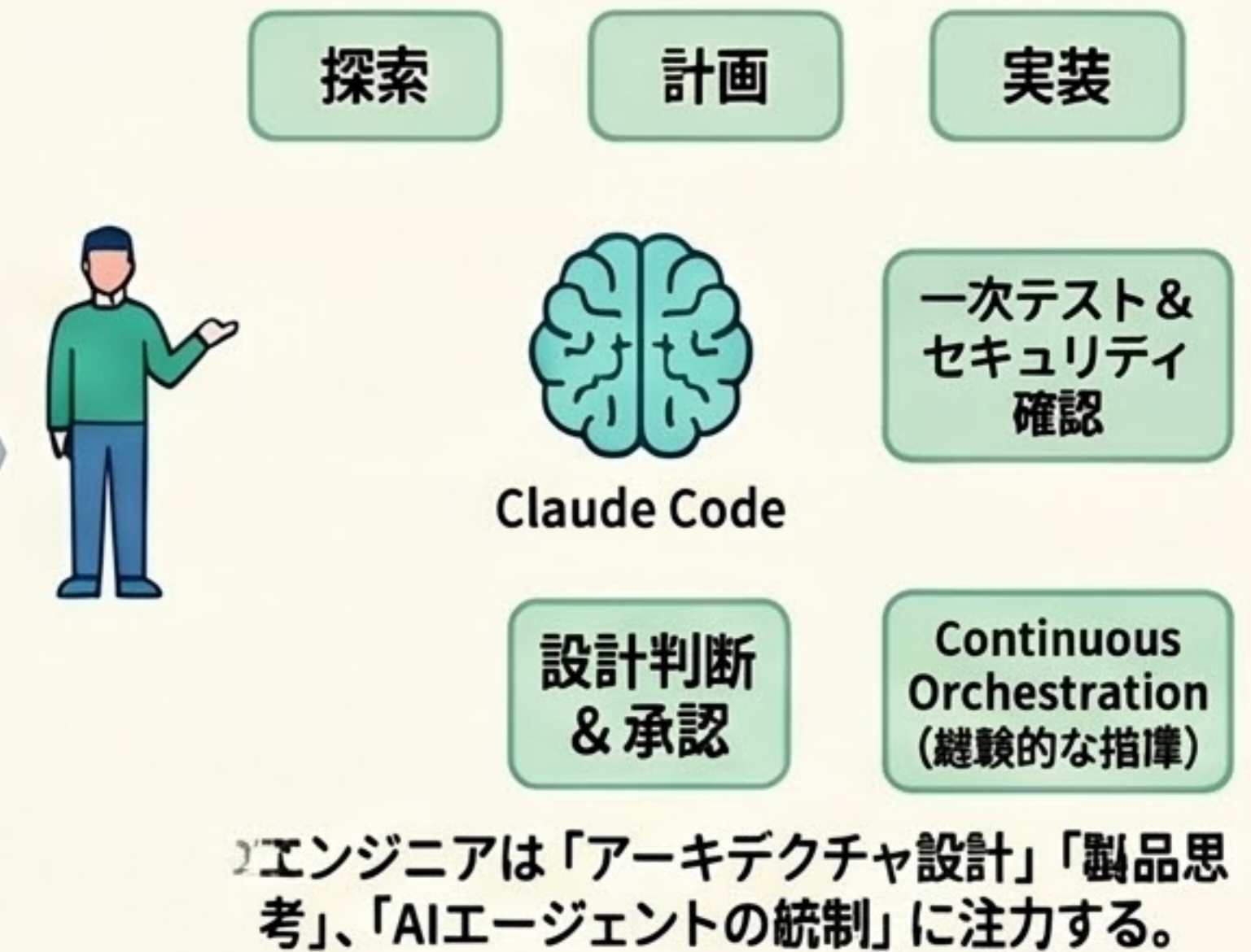
既存コードの「理解・修正」に
ゼロからの生成だけでなく、デバッグやコード理解といった横断的な工程でAIが活用されている。



開発フローの変化：AI-nativeへの移行

従来型：人間が「実装」の主体

AI-native型：人間は「意図と制約」を定義



エンジニアは「アーキテクチャ設計」「製品思考」「AIエージェントの統制」に注力する。

顕在化するリスクと新たなボトルネック

「承認疲れ」と内部インシデント



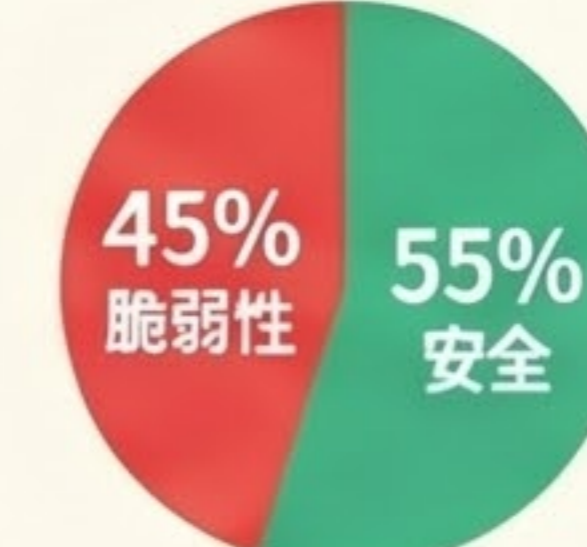
ユーザーが権限プロンプトの93%を盲目的に承認しており、誤操作によるDBマイグレーション試行などの事例が発生。

生成量の増大が招く「レビューの希少化」



PRの生成は数秒で可能だが、人間によるレビューコストは下がっておらず、検証工程が新たなボトルネックとなっている。

AI生成コードの45%に脆弱性の可能性



外課調査 (Veracode) によると、AI生成コードは人間のみの場合より問題を含む確率が高まる傾向がある。

未来のエンジニアに求められるスキル



「コードに詳しい人」から「AIを使いこなす人」へ
短時間でAIに文脈を羅列させ、成果を引き出す能力が、単なる実装速度よりも重要視される。



評価の軸が「実装」から「判断」へ
問題分解、成功条件の定義、レビュー設計、セキュリティ懸念が今後のエンジニアの積差を生む。

実装 (Execution) から
監督 (Oversight) への移行



開発者の主な業務が、コードを書くことからAIの出力を監視・管理する役割へと変化している。

ゼロからの生成だけでなく、デバッグやコード理解といった複雑な工程でAIが深く活用されている。